

平成23年度「基礎・基本」定着状況調査

6月に県下の小学校5年生と中学校2年生を対象に行いました標記の調査に本校の5年生の児童も参加し、「国語」「算数」「生活と学習に関する実態調査」に取り組みました。その結果と分析、今後の指導についてお伝えします。

1. 国語

	広島県	広島市	安西小
教科全体	78.5	77.3	71.5
聞くこと	83.5	82.5	88.3
書くこと	87.9	86.5	86.7
読むこと	77.3	77.3	74.2
言語事項	74.5	72.6	59.1

「聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域においては、本校の平均は市・県平均を上回っているか、ほぼ同値でした。特に、これまで本校として重点的に指導をしてきている「聞くこと」の領域についてはその効果が見られました。

一方、「言語事項」領域の正答率については市・県平均を大きく下回っています。「言語事項」領域の中でも、特に本校児童の正答率が低かった問題としては、漢字の読みを答える問題やローマ字を読んだり書いたりする問題、主語と述語の関係を答える問題がありました。

その他の領域で特に正答率が低かった問題としては、「読むこと」の領域の問題で、登場人物のとった行動の理由を答える問題がありました。漢字やローマ字の読み書きといった国語学習の基礎となる力が弱いことや、文章のつながりをつかみながら読む力が不足していることがわかりました。

これらの結果から、次のようなことに重点をおいて今後の学習指導を行っていきたいと考えています。

- ・日記や作文などの中で漢字を遣いながら覚えることや、辞書を活用して語彙を増やす学習を積み重ねる。
- ・「読むこと」の指導において、文中に根拠を求めながら自分の意見を述べることの指導を徹底し、叙述にそくした読み方が展開できるようにしていく。

2. 算数

	広島県	広島市	安西小
教科全体	77.8	76.2	70.7
数と計算	81.7	80.7	73.5
量と測定	65.2	63.0	58.9
図形	74.3	70.9	63.8
数量関係	86.0	85.4	81.7

算数についてはすべての領域において正答率が市・県平均を下回る結果でした。特に「量と測定」「図形」の領域の正答率が低いということがわかりました。

最も正答率の低かった問題は、「数と計算」の領域の左の問題でした。その他の正答率の低かった問題として「量と測定」の領域では、約1kgの重さのものを選ぶ問題、分度器を使って角度を読み取る問題、長方形を組み合わせた変形図形の面積を求める式を考える問題がありました。また「図形」の領域では、正方形の性質をもとにして一辺の長さを求める問題が特に正答率が低かった問題として挙げられます。数量の理解が量的感覚を伴っていないことや、既習事項を活用して考える力が不足していることがわかりました。

これらの結果から、次のようなことに重点をおいて今後の学習指導を行っていきたいと考えています。

- ・具体物を操作しながら調べたり、比べたり、考えたりする学習活動をしっかりと行う。
- ・既習事項を活用しながら自分の考えをはっきりと持てるよう、自力解決の時間を設定するとともに、多様な考えを聞き合いながら学級全体で共有していくことができるような話し合い活動を重視する。
- ・少人数指導や習熟度別指導を効果的に用い、個々の児童の学習状況をしっかりと把握しながら、的確な学習支援を行っていく。

3. 生活と学習に関する実態調査

毎日の起床・就寝時刻がほぼ決まっていたり、毎日朝食を食べたりするなど家庭での生活習慣はほぼ身についています。また、物事に対する達成感が高く、将来の目標をもっている児童も多いです。

一方で、予習・復習といった家庭での学習習慣はあまり身につけていないようです。また、自分の思いや考えを自分の言葉で相手に伝えることに消極的な児童も多いようです。様々な場面で自分を表現し、それを他者から認められる経験を積んでいくことで、自己肯定感を高めていけるよう指導していく必要があると考えています。

次のテープの長さを、分数を使って表します。どのように表せばよいでしょうか。